

# ■ 2025年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	数学(文系)
----	--------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

**〈総論〉**

出題数と全体の難易度は例年通り。昨年は大問ごとの難易度に差があったが、今年はすべて同程度の難易度であり、理系と2問の共通問題が出題された。どの問題も完答するのは難しく、受験生にとっては難しいと感じる内容だと思われる。

**〈特記事項・トピックス〉**

新課程入試ということで、「整数」をテーマとした出題に注目していたが大問2、3で整数に関連した出題がなされた。頻出分野である「確率」、「微積分」が今年も出題された一方で、「数列」、数学Cの「ベクトル」の出題はなかった。

**〈合格への学習対策〉**

名大文系の数学は例年、すべての問題に完答するには1、2つの難所がある。丁寧に題意を把握し、時間をかけてでもミスのない計算をし、1問でも完答できるのが望ましい。標準的な問題をミスなく計算できる力をつけて、過去問演習で実践力を磨くと良いだろう。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	II	微積分	放物線とx軸の2交点P、Qを題材として、積分による面積の計算の問題。(1)の計算結果からp、q、r、sの大小関係を把握することで(3)の領域を正確に把握できるかがポイントになる。(3)の面積計算は(2)の結果を利用できるが、煩雑な計算になるので丁寧に計算することが重要である。	標準
2	記述	A	整数	因数分解により積の形を利用する整数問題。因数分解に気づくことは難しくないが、 $a+b$ と $a-b$ の偶奇が一致することを利用できるかで差がつくと思われる。(2)は(1)と同じ議論を抽象的に行えるかどうかポイントになる。	標準
3	記述	A	確率, 整数	コインを無作為に選び、そのコインと隣接するコインを裏返す試行を繰り返す問題。「コインを選ぶ」行為と「コインを裏返す」行為を混同しないこと、混同しないように記述できるかが題意把握のポイントになる。(2)は結果だけでなく、適切な議論が求められると思われるが、受験生にとっては難しい問題となっただろう。(3)では(2)の結果を利用して、状況を把握できるかが重要となる。0が偶数に含まれることに注意したい。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。